



編集者 高橋 英一

法人本部・生活支援センター
〒314-0016
茨城県鹿嶋市国末1539-1
TEL 0299(82)6464
FAX 0299(83)3261

鹿島育成園 (児童寮及び育成寮)
〒311-2401
茨城県潮来市大賀438-4
TEL 0299(66)3439(代)
FAX 0299(66)3431

<http://www.kashima-ikuseien.com/>
mail:kaikusei@eagle.ocn.ne.jp

定価 100円



新型コロナウイルス罹患発生の中で

園長 高橋 英一

一月三十一日児童寮で特別支援学校の高等部に通学している児童が新型コロナウイルスに罹患してしまいました。陽性が判明する前に買い物と一緒に出掛けた他の児童と職員も感染し、事前にコロナ発生時の対応を決定していた手順に従い、レッドゾーンを設け感染拡大を食い止めるべく努力しましたが、残念ながら児童十四名と職員四名が罹患してしまいました。同じ食堂を利用していている育成寮には高齢で基礎疾患がある利用者も多く感染防止に注力しました。児童寮からの感染は防げたものの日中一時利用の方から一名が感染してしまいました。児童寮・育成寮とも全員完治しましたが、陽性になった職員が自ら申し出てレッドゾーンに泊まり込み「陽陽介護」に当たったり、近隣のホテルに連泊して業務に付いてくれました。そうした行動に胸が熱くなり、本当に頭が下がる思いでした。こういう職員達に鹿島育成園は支えられている事に感謝しています。



研修報告

「潮来保健所管内福祉施設でのクラスター発生時における応援職員への研修会」

育成寮 主任 金子 俊一

1月19日、標記の研修に参加しました。今回の参加施設は、障害者支援団体より2名、高齢者施設団体より3名と少数で、①実際にN95微粒子用マスクを着用し顔面との密着性の適否の評価、②PPEを実際に着脱し、正しい着脱方法を学ぶ、という実技と、新型コロナウイルス感染症についての座学の二本立てでした。N95マスクを着用したのは初めてで、通常使っているマスクとは全く違うものでした。頸部と頭頂部にゴムを掛け、ノーズワイヤも硬く、鼻にフィットさせるが大変息苦しく、これにPPEを装着して夏場の暑さを思うと我慢できるものではないな、と感じました。改めてこのような重装備で診察に当たっていた医療従事者の苦勞が偲ばれました。キットを使つてのフィット性の評価では、私はマスク内の微粒

子が殆どない状態の緑表示が出ましたが、他の参加者は息漏れの表示があり、少し嬉しかったです。PPEの着脱では、ガウンの袖を親指で突き破り、ゴム手袋を嵌める方法を学びました。この方法はゴム手袋がずれる事が無く、フィット感があり良いものだと思います。また、仮に脱ぐ手順を誤ったとしても、必ず「手指衛生」・「消毒を行為の間に入れる事により感染は防げるので、慌てず脱ぐ事」と教わりました。この事も私にとつて安心できる事でした。

「手指衛生」・「消毒は、ポンプを完全に押し下げ、掌に液を溜めて行う」という事も改めて知り、日頃実行したいと思えました。新変異株であるオミクロン株の感染拡大により蔓延防止等重点措置が茨城県でも適用されました。重症化率が今までの株と比較して低いものとはいえ、利用者の生活を預かる職員としては、樂觀的になる事無く出来る事は怠らせずに感染防止を意識しなくてはならない、と改めて思いました。

個別支援計画から

アイリス 生活支援員

高須 裕子

アイリスに異動になり、Bさんの担当も二年目になりました。Bさんは、ルーティンを崩さなければ落ち着いて過ごすことができます。急な日課の変更は苦手ですが納得のいく声掛けや、先回りをした対応をする事で不安定になる事は減ってきています。

今年に入り「雪の為、早めに迎えに行きます」と、家族から連絡が入りました。午後の日課も残っており、早く帰ることをBさんが受け入れるのは難しい状況でした。外を眺め雪の話をしながらいえが来ることを伝え、帰り際のルーティンである着替えを促しました。普段の時間と異なりましたが、ひと通り行うと納得した様で家族の迎えの際は挨拶をしてスムーズに帰ることが出来ました。

その他にも好奇心旺盛で色々なことに興味を示しますが、苦手な事には集中力が続かず手が止まってしまう事があります。

誰でも苦手な事から逃げたり、後回しにしてしまう事があると思いますが、Bさんは苦手意識より好奇心の方が勝っている様です。年末から請け負っている外部委託の部品袋詰め作業を丁寧かつ正確に行うことができていたのは昨年度から活動の中心となつている機能訓練、手指先のトレーニングの成果だと感じています。集中力も身に付き一時間で二百五十個程度仕上げます。部品がなくなった時に報告をする事が出来ないといった課題はありますが、細かい作業に一生懸命取り組んでいます。

また、日常生活においても歯ブラシの準備や活動後の教室内の掃き掃除を自ら取り組む事が増えました。出来る事を継続する事と同時に丁寧に行う事も課題となつていますがBさんが「やつてみようかな!!」と、思えるような声掛けや環境作り、関わり方も大切な事だと気付かされます。出来る事を増やし自信に繋がる様な支援をしていきたいと思えます。



将来に向けて

児童寮 須田 光渥

私は、将来「かいごし」になりたいです。理由は、2つあります。

まず1つめは、こうれいしやの方がふえてきて人でぶそくで、何か自分が人のためにできないの、かかって考えていました。

2つめは、私が中1の時に、おじいちゃんが入院していた時に、自分は、何も手伝えなくて、ただ見守ることしか、できなくて、泣いたこともありました。

だからこそ私は、「かいごし」になることで何か1つでもできることをしたいです。おじいちゃんおばあちゃんにさびしい思いは、させないようにするため、人にべい優しくそして明るく、すなおなきもちで少しづつでも前を向いて進むことがけます。



*紙面に記載されている個人情報、ご本人または保護者様の了承を得て掲載しています。



手作りのお面をつけて、各作業班で豆まきを行いました。



2/3 節分会。皆さん大きな声で豆まきをしました

育成寮 豆まき



総成人

新成人のお二人。おめでとうございます!



来春の収穫に向けて 植菌作業に励んでいます

育成寮 椎茸





育成寮 生活支援員
舊役 智恵子

しばらく遠のいてはいるが、山登りが好きである。発端は、学生時代の尾瀬の燧ヶ岳である。頃は五月。友人との二人旅。抜けるような青空。

湿原を歩き、清流の際でお弁当を食べ、上々のすべりだし。しかし、山道に入るや人気はまばらで、一面の雪。ジャージに軍手という無謀な服装で登り進め、山の管理人さんからは、「そんな格好で来るな。」と怒られる始末。

下山時には崖のような難所があり、血の気が引いた。リュックを投げ落とし、空身で尺取虫のように一足一足慎重に下り、再び湿原にたどり着いた時には達成感でいっぱいだった。

苦楽をともにした友人との交流は現在進行形で、つい先日は、愛媛の特産「甘平蜜柑」が届いた。こちらからは、茨城名物「干し芋」を送る予定である。

厨房から

栄養士 小島 みどり

コロナ禍での安心な給食の提供はとても煩雑になり、利用者の方々にも不便をかけてしまっています。自粛生活の中で、食べる事の期待も大きくなり厨房の役割も増しています。寒い日が続く冬、身体を温めるあつたかい麺料理や、具だくさんの汁物を多くし、また春を先取りした献立を取り入れ、身体と共に心もホッとして欲しいと思います。一月中旬に食堂の床の張替えを終えて、一層明るくなった食堂で、食事の時間をもつことができています。



食堂が明るくなりました

健康だより

看護師 渡辺 加代

コロナ禍となって、既に2年が経過しました。当初、マスクの着用もままならなかった利用者さんもだいたいマスクに慣れ、着用出来る様になってきています。育成園では、対象となる利用者さんや、職員の3回目のワクチン接種をほぼ終了しました。しかし、コロナの終息にはまだまだ時間がかかりそうです。これからも気を引き締めて、感染予防に努めていきたいと思えます。

育成寮 あやめ班

昨年の秋に種を蒔き、あやめ班の作業室前の陽だまりで育てたパンジー。こんなにきれいに咲きました



寄付・寄贈・招待

水島 由美子 様 (茨城県)
清真学園高等学校
ロステイスカ 様 (茨城県)

行事予定

- 3月 3日 児 ひな祭り会
- 8日 児 支援学校高等部卒業式
- 13日 法人 理事会
- 14日 児 いちご狩り①
- 17日 児 支援学校中部・小学部卒業式
- 21日 法人 法人説明会
- 27日 児 お花見
- 30日 児 いちご狩り②
- 31日 児 いちご狩り③
- 4月 1日 法人 辞令交付式
- 6日 育 お花見
- 7日 児 支援学校入学式

編集後記

今年度も無事年6回の広報誌を発行することが出来ました。協力して頂いた皆様ありがとうございました。来年度も育成園のさまざまな魅力をお伝えできるよう取り組んでいきたいと思えます。

(広報担当一同)

*紙面に記載されている個人情報、ご本人または保護者様の了承を得て掲載しています。